

泉佐野泉南医師会圏域

**医療と介護・多職種連携
に関するアンケート**

調査結果

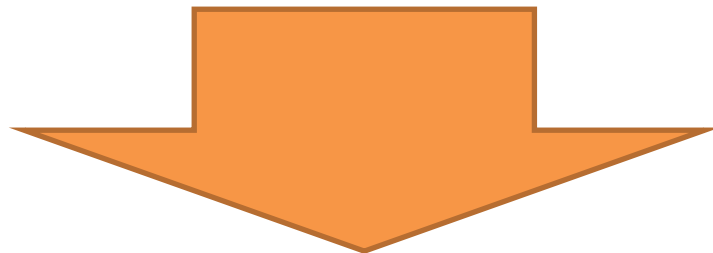
【MSW】

《在宅医療円滑化ネットワーク事業》

泉佐野泉南医師会

1. アンケート調査の目的

- 高齢化の進展に伴い医療と介護の双方を必要とするシームレスな医療提供体制の整備が必要
- 「共通認識」を持つことは、この泉州地域でいつまでも暮らし続けたいと願う高齢者にとってきわめて重要
- 高齢者一人ひとりのライフステージにあった「地域包括ケア体制」の構築の実現に向けた課題抽出



関連する職種にアンケート調査を実施

2. アンケート調査の概要

1) 実施状況

- | | |
|--------|---|
| ○実施期間 | 平成25年1月7日～1月19日 |
| ○調査基準日 | 平成25年1月1日 |
| ○調査方法 | 郵送による配布・回収及び無記名調査 |
| ○調査対象者 | 泉佐野泉南医師会圏域の <ul style="list-style-type: none">・医師(診療所医師)・歯科医師・薬剤師・病院地域医療連携室(MSW)・介護支援専門員(ケアマネジャー)・訪問看護ステーション・地域包括支援センター・行政 |

2.調査の概要

- 実施期間 平成25年1月7日～1月19日
- 調査基準日 平成25年1月1日
- 調査方法 郵送による配布・回収及び無記名調査
- 調査対象者 泉佐野泉南医師会圏域に所在するすべての
 - ・医師(診療所医師)
 - ・歯科医師
 - ・薬剤師
 - ・病院地域医療連携室(MSW)
 - ・介護支援専門員(ケアマネジャー)
 - ・訪問看護ステーション
 - ・地域包括支援センター
 - ・行政

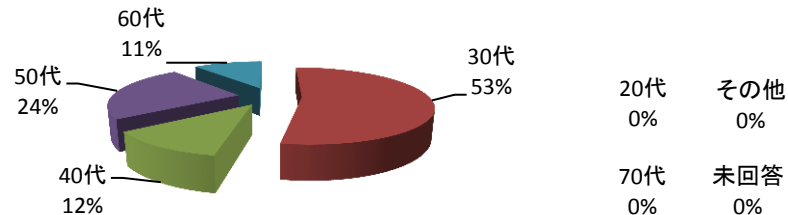
3.アンケート回収状況と回収率

	有効回収数 / 配布数	回収率
医師(診療所医師)	105 / 158	66.45%
歯科医師	61 / 113	53.98%
薬剤師	60 / 97	61.86%
病院地域連携室	17 / 27	62.96%
ケアマネジャー	100 / 123	81.30%
訪問看護ステーション	12 / 19	63.15%
地域包括支援センター	4 / 4	100%
行政	7 / 7	100%
合計	366 / 548	66.79%

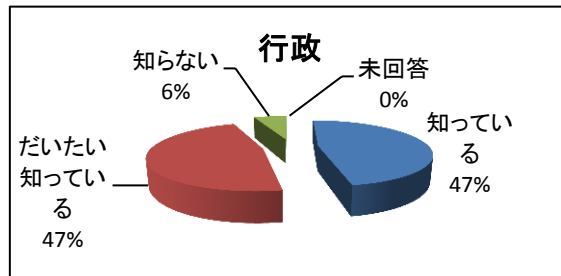
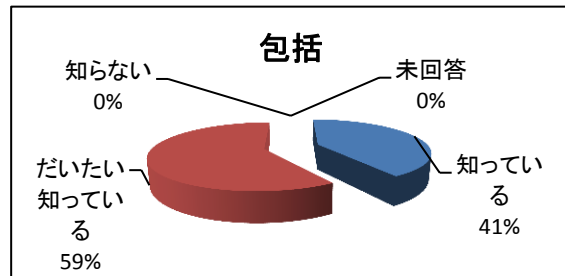
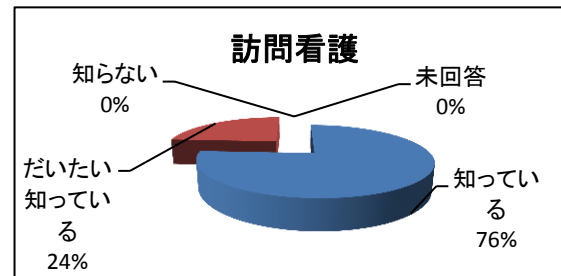
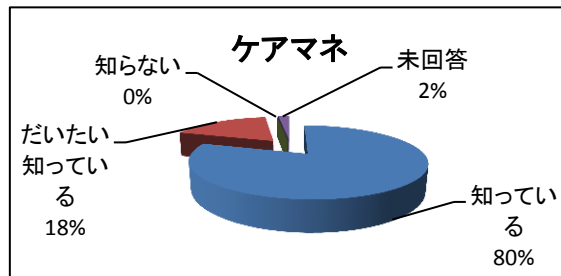
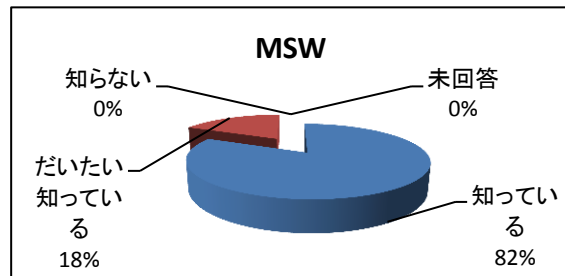
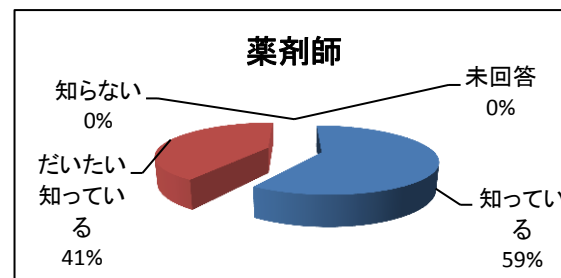
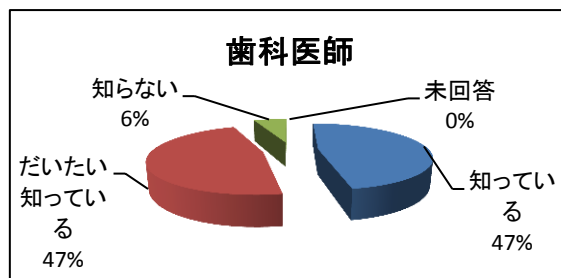
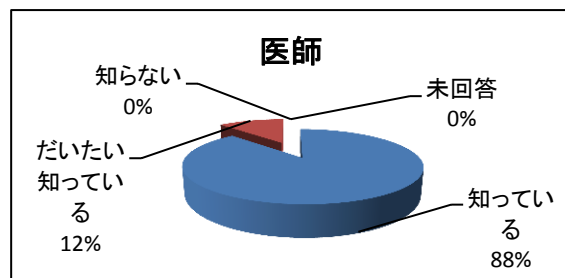
アンケート結果

1) あなたの年齢をお聞かせください。

MSWの年齢については、30代(53%)で半数以上を占めており、次いで、50代(24%)となっている。

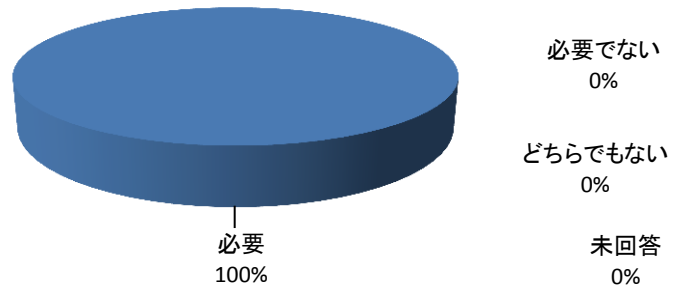


2) 在宅医療・介護の連携において、他職種の役割を知っていますか。



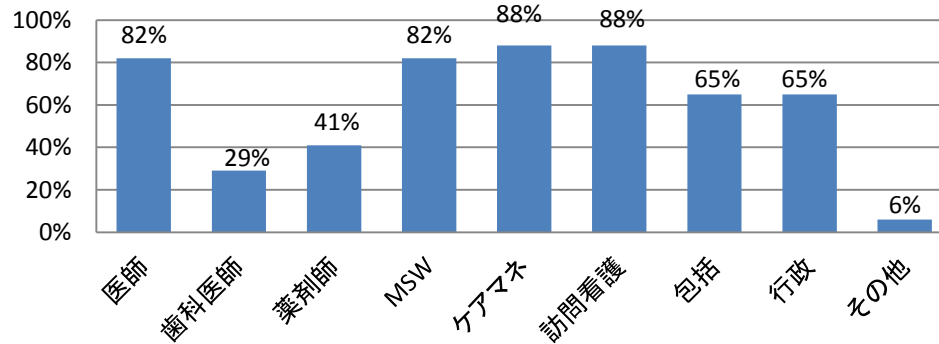
それぞれの他職種の連携における役割については、すべての職種の役割を、MSWは把握しているとの結果であった。

3) 在宅医療・介護の業務をする上で多職種との連携は必要と思いますか。



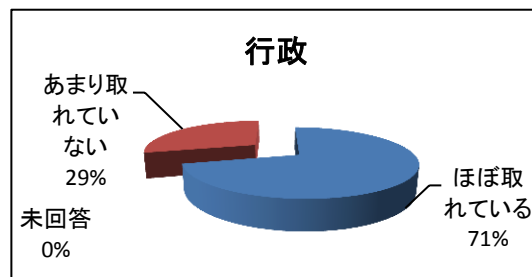
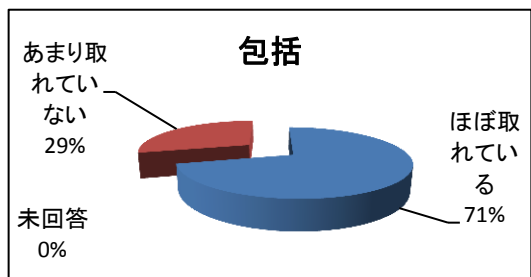
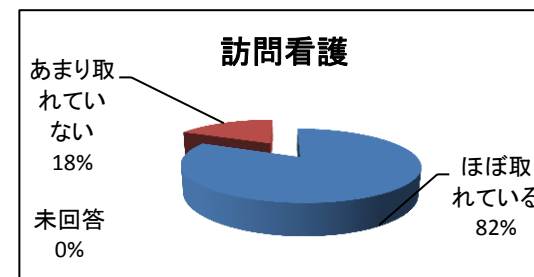
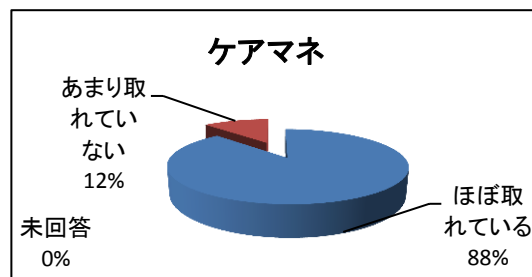
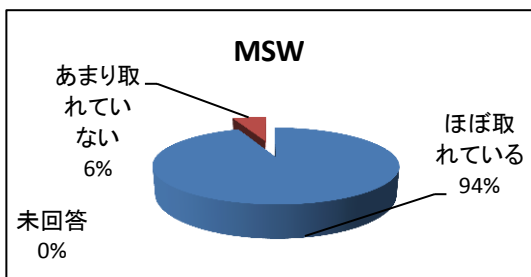
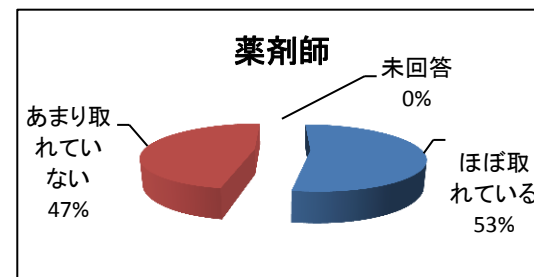
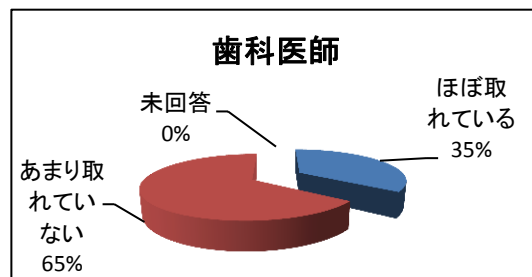
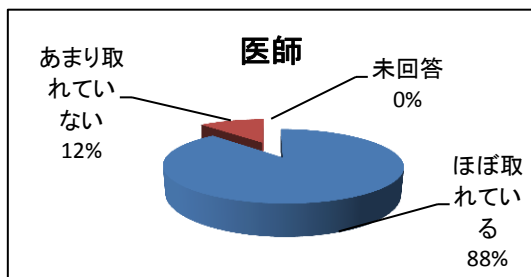
全ての病院地域医療連携室が「必要」との回答である。

4) どういった職種と連携していますか。



ケアマネジャー、訪問看護と連携しているMSWがともに88%と高く、次いで、医師、MSWがともに82%となっている。歯科医師、薬剤師との連携が進んでいない。

5) 多職種及び他機関との連携においてお聞かせください。



多職種及び他機関との連携においては、歯科医師、薬剤師を除いて、他の職種との連携は進んでいるとの結果である。

《阻害要因》

診療所医師

- ・面会する機会がない。
- ・受付、事務員、相談員との連携が多い。

歯科医師

- ・歯科で関わるケースが少ないため。
- ・話し合う機会がない。
- ・依頼ケースがあまりない。
- ・情報交換の機会がこれまでなかった。

薬剤師

- ・適宜連携はしているが、薬剤関係については医師が主に判断されることが多いため。
- ・在宅医療に関して薬剤師と接する事がない。
- ・調剤薬局の薬剤師と特別に連絡を取る機会がこれまでなかった。院内の薬剤師とは剤型の変更等、連携して実施できている。

病院地域連携室(メディカルソーシャルワーカー)

- ・なし

介護支援専門員(ケアマネジャー)

- ・話し合う機会があまりない。

訪問看護ステーション(看護師)

- ・訪問看護についてはケアマネに依頼しているため。
- ・CMが中心に入っているためそちらの連携となる為。

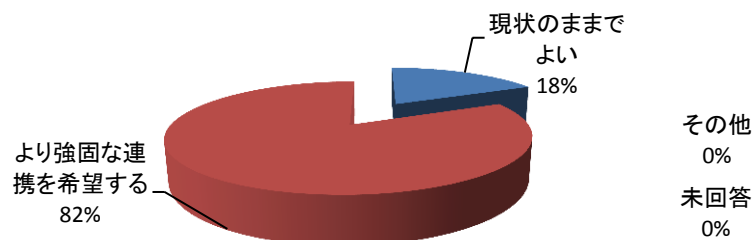
地域包括支援センター

- ・連絡をとるチャンスがない。
- ・連絡を取る事がない。
- ・ケースワーカーに依頼しているため、直接地域包括支援センターに連絡はしていません。

行政

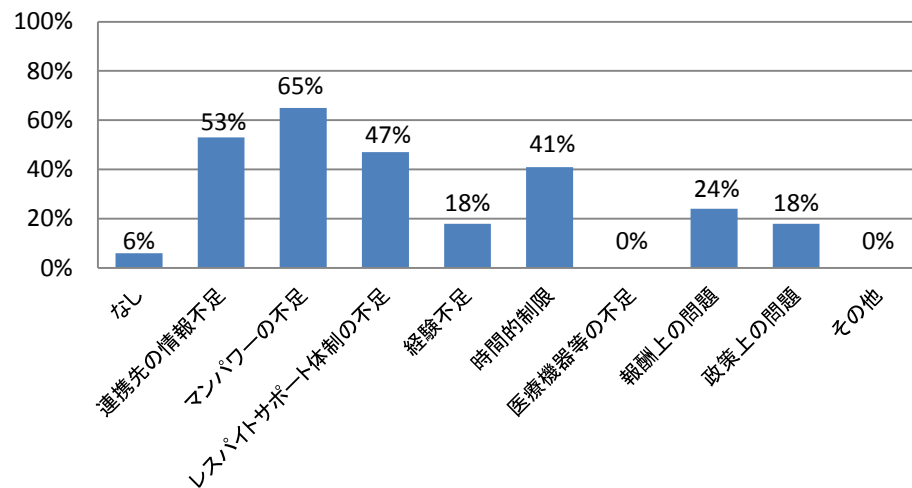
- ・担当の部署がわからない。
- ・連絡を取る事がない。
- ・特にこちらから連絡を入れるケースがない。

6) 今後の連携についてお聞かせください。



今後の連携については「現状のままでよい」としたMSWは18%で、「より強固な連携を希望する」としたMSWは82%であった。

7) 在宅ケア（医療・介護）について、できにくい阻害要因について、お聞かせください。



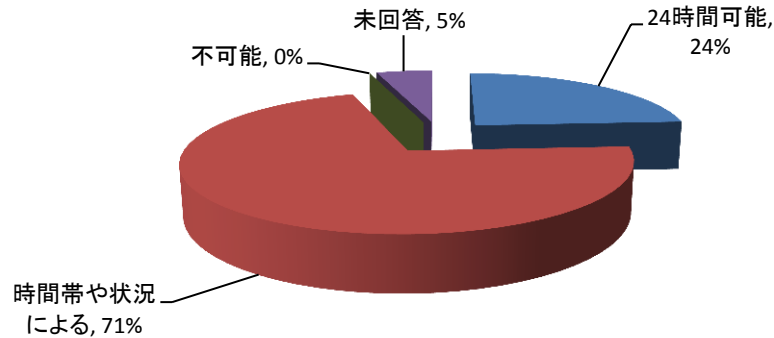
在宅ケア（医療・介護）のできにくい阻害要因については、「マンパワーの不足」65%と高く、次いで、「連携先の情報不足」が53%、「レスパイトサポート体制の不足」が47%となっている。

8) 在宅医療ケアに係る連携を構築する上での問題点や課題などをお聞かせください。

【抜粋】

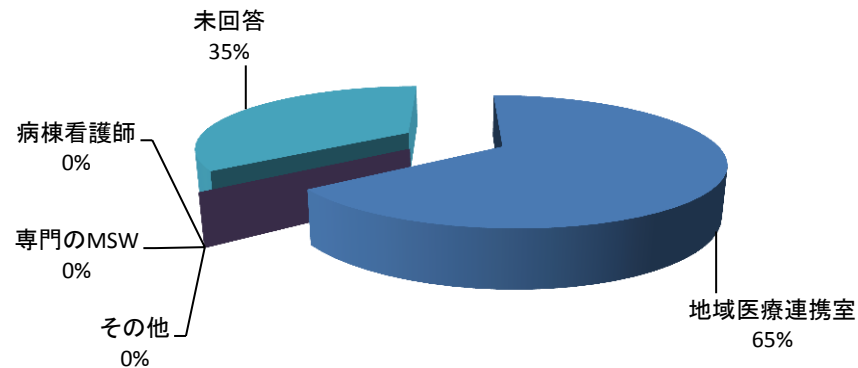
- ・多職種が集まる定期的な会議が必要。
- ・専門領域がわかる名簿、マップなどの作成。
- ・病院のスタッフに介護サービスの知識をもっとつける必要がある。
- ・急変時にどのように対応するか事前に家族はもちろんのこと、各職種の方に周知しておく必要があると考えます。
- ・各機関、各機能、各職種の役割を相互理解すること及び情報共有する為の仕組(ツールなど)の確立が必要である。
- ・治療状況、介護保険の利用状況、家庭環境などの情報を一元管理するシステム、ツールが必要。
- ・在宅サービスの種類、内容について偏りがあるように思う。個々のニーズにある程度対応できるような在宅サービス、連携システムが必要かと考えます。

9) 緊急時の受け入れ態勢について、お聞かせください



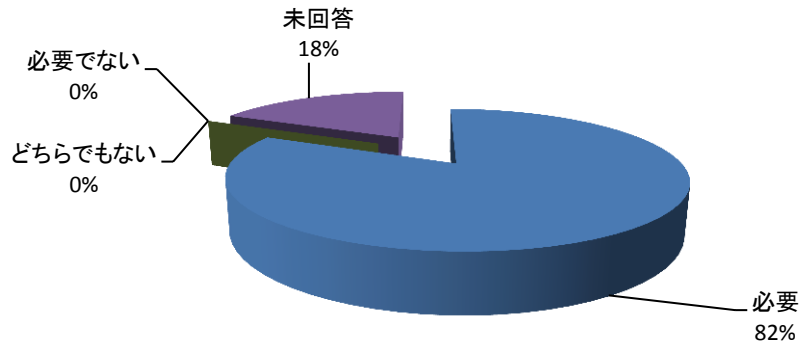
緊急時の受け入れ態勢については、「24時間受け入れ可能」「時間帯や状況により受け入れ可能」と答えた病院は合わせて95%で、「不可能」と答えたMSWはなかった。

10) 退院時の調整窓口について、お聞かせください。



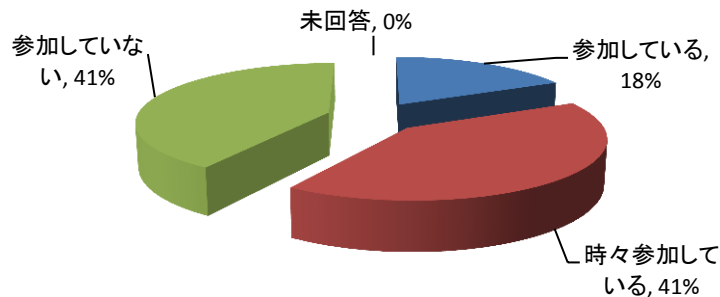
退院時の調整窓口については、65%のMSWが「地域医療連携室で対応」と答えている。

11) 多職種と連携する場合、情報を共有するためのツール（連携シート等）が必要と思いますか。



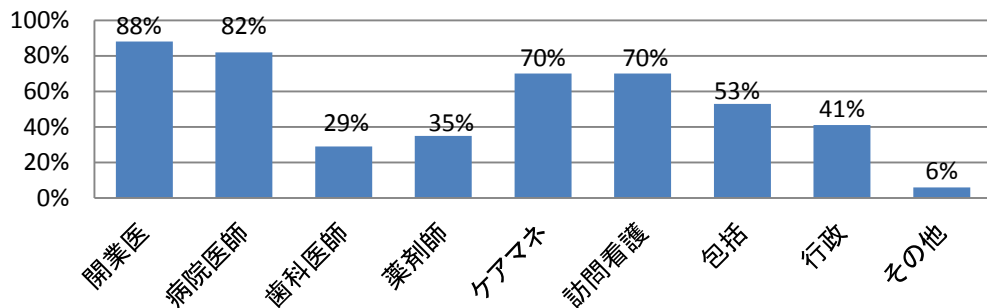
連携シート等については、82%のMSWが「必要」と答えており、「必要でない」としたMSWは1人もいなかった。

12) ケアマネジャーが主催するサービス担当者会議に参加していますか。



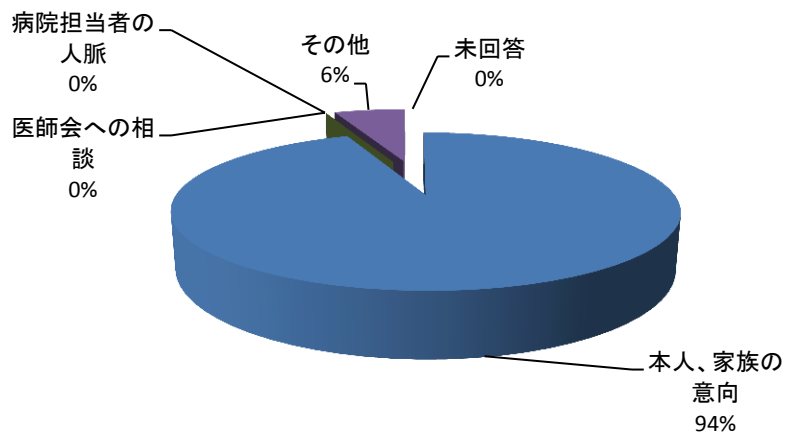
サービス担当者会議に「参加している」(18%) 「時々参加している」(41%)と合わせて59%のMSWが参加していると答えているものの、41%のMSWは「参加していない」と答えている。参加できない場合の連携の取り方を医師会圏域で決めていく必要があると思われる。

13) 退院時に連携が必要と思われる職種を教えてください。



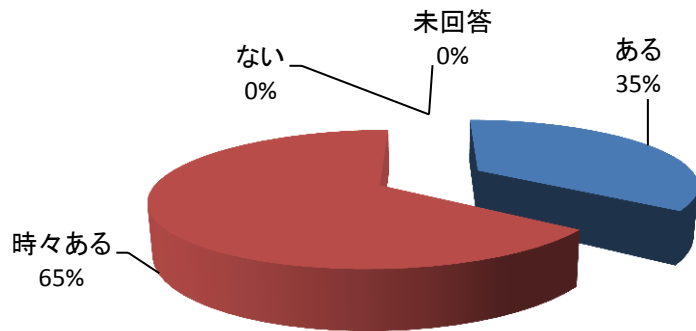
退院時の連携が必要な職種については、開業医、病院医師と連携が必要としているMSWは80%を超えており、次いで、ケアマネ(70%)、訪問看護(70%)となっている。包括との連携が必要としているMSWは53%であった。歯科医師、薬剤師については、ニーズによるものと推測される

14) 患者が退院する際、かかりつけ医を持たない患者のケースはどうしていますか。



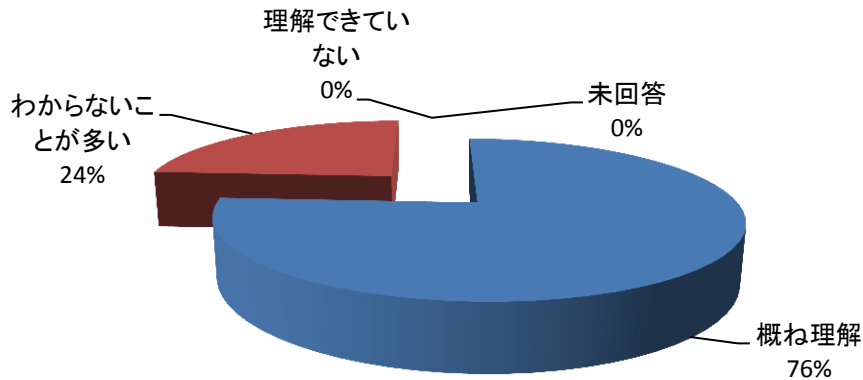
かかりつけ医を持たない患者の退院調整については、「本人、家族の意向」が94%となっており、その他においては、「外来フォローが多い」となっている

15) 転院調整をする際に難渋することがありますか。



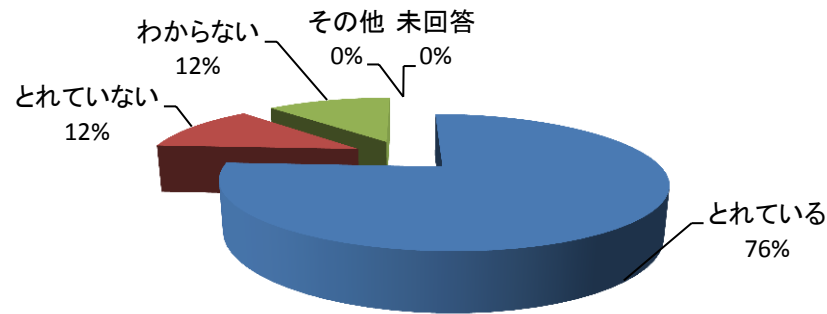
転院調整の難渋については、「ある」が35%、「時々ある」が65%で、すべてのMSWが「難渋することがある」と答えている。

16) 近隣の病院の役割や特徴が理解できていますか。



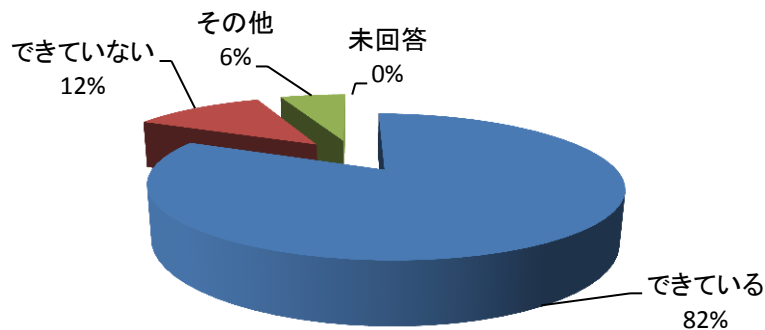
近隣病院の役割や特徴については、「概ね理解できている」と答えたMSWは76%で、24%のMSWは「わからないことが多い」と答えている。

17) 近隣の病院とうまく連携がとれていますか。



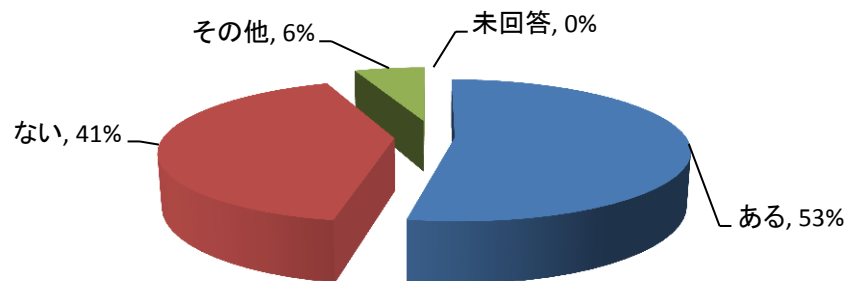
近隣病院との連携については、76%のMSWは「とれている」と答えており、「とれていない」「わからない」と答えたMSWはともに12%であった。

18) 近隣の病院とうまく情報の伝達ができていますか。



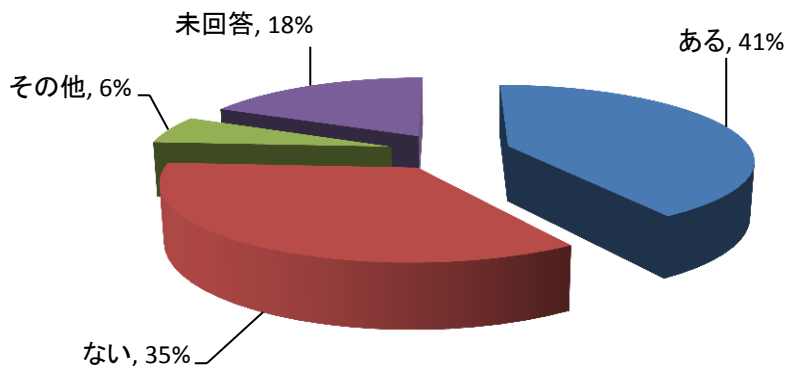
近隣病院との情報の伝達については、82%のMSWは「できている」と答えているが、12%のMSWは「できていない」と答えている。その他については、「ケースによる」という答えもあった。

19) 転院調整をする際に、病院間での一定のルールがありますか。



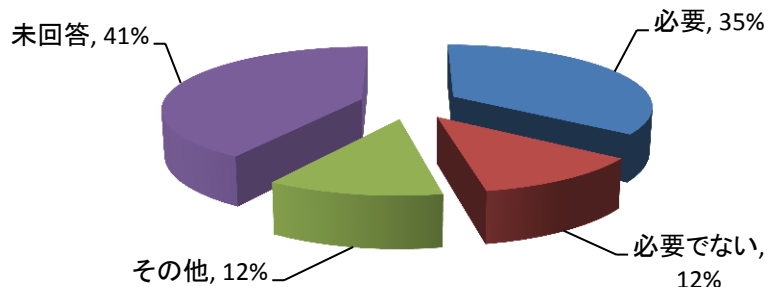
病院間での一定のルールについては、「ある」と答えたMSWは53%であった。

20) 病院間での連携をとるために、病院間で協議する場がありますか。



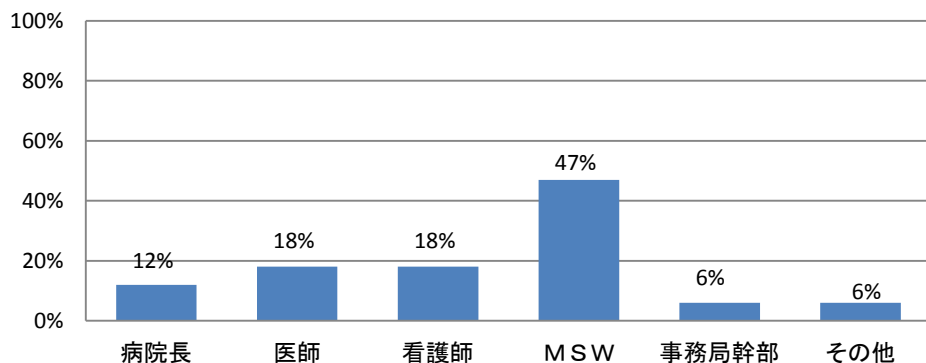
病院間での協議の場の有無については、41%のMSWは「ある」と答えているものの、35%のMSWは「ない」と答えている。「その他」の意見では、「時に応じて」という意見があった。

21) 問い20) 「ない・その他」と回答された方に質問です。病院間で協議を行う場が必要ですか。



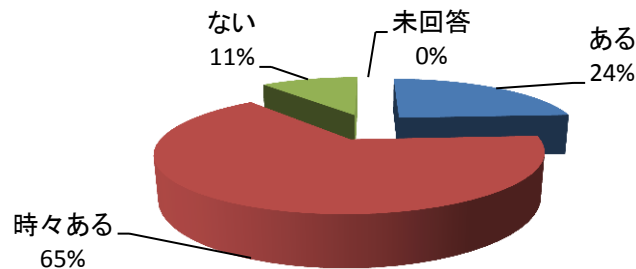
病院間での協議の場の必要性については、35%のMSWが「必要」と答えており、「必要ない」としたMSWは12%に止まっている。また、「その他」では、「時に応じて」「問題が大きく生じれば」との意見があった。

22) 問い21) で「必要」と回答された方に質問です。具体的にどのような職種で連携・協議が必要ですか。



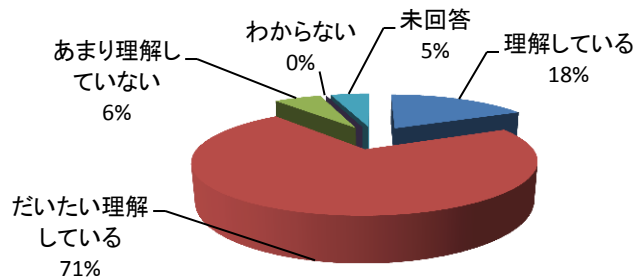
どの職種での連携協議が必要かについては、47%が「MSW」と答えており、次いで、「看護師」「医師」「病院長」となっている。

23) 在宅退院の調整をする際に難渋することがありますか。



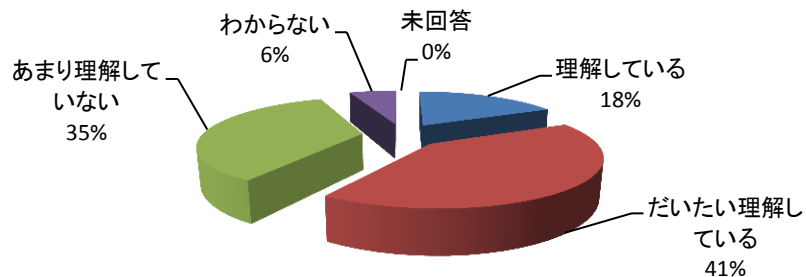
在宅退院における難渋については、「ある」(24%)、「時々ある」(65%)とあわせて89%のMSWが「難渋する」と答えている。

24) 地域包括支援センターの活動を理解していますか。



地域包括支援センターの活動については、「理解している」(18%)、「だいたい理解している」(71%)と、合わせて89%のMSWが理解していると答えている。「あまり理解していない」と答えたMSWは、6%であり、「わからない」と答えたMSWは1人もなかった。

25) 地域包括ケアシステムについて理解していますか。



地域包括ケアシステムについては、「理解している」(18%)、「だいたい理解している」(41%)と、合わせて59%のMSWが理解していると答えている。「あまり理解していない」と答えたMSWは35%で、「わからない」と答えたMSWは6%であった。

26) その他、転退院調整での問題や課題があれば、お聞かせください。

【退院の場合】

- ・在宅医療を開始する場合、家族を含めてのカンファレンスが必要だと思うが時間の調整が難しい。
- ・本人、家族への説明及び病診連携、他施設との連携を適切に行う。
- ・高齢長期入院者への退院調整に苦慮する。

【転院の場合】

- ・診療情報、看護サマリーを詳しく記載してほしい(認知度などあまり書きたくない情報も含めて)。
- ・重度の認知症患者さんの転院ケース。
- ・医療の必要度が高い在宅復帰の難しい患者の受け入れ施設が不足している。
- ・本人、家族への説明及び他病院への情報提供を適切に行う。
- ・休日や夜間の転院調整が難しい場合がある。

★ 他の職種に対してのご意見・ご要望（抜粋）

① 診療所医師に対して

- ・なし

② 歯科医師に対して

- ・口腔ケアの重要性についての小刷子を作してほしい。

③ 薬剤師に対して

- ・患者さんに発行したお薬手帳の内容を医師の要望に応じて教えてほしい。

④ 病院地域連携室に対して

- ・紹介した患者の迅速な対応。

⑤ 介護支援専門員に対して

- ・患者から医療上の相談があった場合、先ずかかりつけ医に問い合わせしてほしい。
- ・今後、地域包括ケアを行う上で、主にケアマネが中心となって各職種間での連携をすみやかにいき、情報の共有が必要であると考えます。
- ・Dr.にFAXのみでの質問は不可です。

⑥ 訪問看護ステーションに対して

- ・医師との連携を重視してほしい。

⑦ 地域包括支援センターに対して

- ・多職種連携会議を主催してほしい。
- ・地域での生活を支援していく上で、今後も一緒に協働していけたらと思っています。また、お互いに連携していくために意見交換会などもできればうれしいです。

⑧ 行政（市町及び保健所）に対して

- ・部署間の連携、情報共有、業務スピードを強化してほしい。
- ・法（生活保護法など）解釈が市町によって変わる為、統一してほしい。
- ・地域包括ケアシステムの構築に、病院としても支援していきたいと考えていますので、これからもよろしくお願いいたします。